

埼玉アートシアター通信



蜷川幸雄三回忌追悼公演
『ムサシ』

"MUSASHI"



2018 1月-3月

SAITAMA
ARTS THEATER
PRESS
VOL.73



ワレワレのモロモロ ゴールド・シアター2018春／ジハードーDjihadー／めにみえない みみにしたい
MEET THE DANCE／Noism1『NINAー物質化する生け贄』
マレイ・ペライア／2018年度 ピアノ・エトワール・シリーズ

2018 1月 - 3月

SAITAMA
ARTS THEATER
PRESS
VOL.73

CONTENTS

- 03 〈PLAY〉 世界に向けて放ち続ける
蜷川幸雄三回忌追悼公演『ムサシ』
- 06 〈PLAY〉 岩井秀人×さいたまゴールド・シアター
さいたまゴールド・シアター番外公演
『フレフレのモロモロ ゴールド・シアター2018春』
- 07 〈PLAY〉 世界最前線の演劇×さいたまネクスト・シアター 待望の新シリーズがスタート!
さいたまネクスト・シアターO 世界最前線の演劇1『ジハード-Djihad-』
- 08 〈PLAY〉 子どもたちと、見えないモノを探る
『めにみえない みみにしたい』
藤田貴大 Interview
- 10 〈DANCE〉 MEET THE DANCE ～アーティストが学校にやってくる!
- 12 〈DANCE〉 Noism1『NINAー物質化する生け贄』
- 14 〈MUSIC〉 人生をかけた誠実さ——マレイ・ペライアとの再会に寄せて
マレイ・ペライア ピアノ・リサイタル
- 16 〈MUSIC〉 2018年度ピアノ・エトワール・シリーズ
新星ピアニスト3人の輝き
シャルル・リシャル＝アムラン／ダニエル・シュール／レミ・ジュニエ
- 18 〈EVENT〉 彩の国シェイクスピア・シリーズ第33弾
『アテネのタイモン』関連イベントレポート
- 19 REVIEW
- 20 イベントカレンダー／チケットインフォメーション／彩の国シネマスタジオ
- 23 INFORMATION
- 24 〈COLUMN〉 岩松 了 連載「どっちつかずの天使」最終回

[表紙] 『ムサシ』

編集◎川添史子、榊原律子 デザイン◎柳沼博雅

©公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団 Published on 15.Jan.2018 All Rights Reserved by Saitama Arts Foundation

※掲載情報は、2017年12月25日現在のものです。公演は追加および一部変更される場合がありますので、ご了承ください。



『ムサシ』 Photo◎渡部孝弘

世界に向けて 放ち続ける

蜷川幸雄三回忌追悼公演

ムサシ

9年前の初演以来、上演する度に新たな観客と感動を生み出している『ムサシ』がこの3月によりがえる。蜷川幸雄がつくり出したこの傑作は、ロンドン、ニューヨーク、シンガポールなど、これまでにのべ5カ国9都市で上演され、約17万人を動員。今回の再演では上海公演も決まっており、その躍進は止まらない。昨春秋、ロンドンで『NINAGAWA・マクベス』が上演され、イギリスの観客が熱狂。長年蜷川氏の取材を続けた記者の山口宏子氏によるレポートを送る。死後も変わらず、世界的にその唯一無二の才能を見せている演出家を振り返ろう。

蜷川幸雄さんの代表作の一つ『NINAGAWA・マクベス』が2017年秋、ロンドンのバービカン劇場で上演された。

シェイクスピア悲劇を日本の安土桃山時代に置き換えたこの作品で、蜷川さんは世界に飛躍した。1985年の英国エディンバラ芸術祭で旋風を巻き起こし、2年後にはロンドンでも公演。「痛いほど美しい」と評され、「サムライ・マクベス」という愛称で呼ばれる舞台は、「ニナガワ」の名とともに、観客の胸に深く刻まれた。

その作品の30年ぶりの英国公演。私は現地で、その歓迎ぶりを目の当たりにした。チケットは早々に売り切れ、公演当日

の劇場では、わずかに戻るキャンセル券を求めて、数十人が列を作っていた。劇は3時間の長尺、英語字幕を付けての日本語上演にもかかわらず、観客たちの集中はまったく緩まない。ドラマの展開と同調して劇場全体が呼吸しているような、濃密な空気を感じた。

蜷川さんの一周忌追悼公演でもあった今回は、カーテンコールで舞台の上に蜷川さんの遺影が掲げられた。赤い月と闇に浮かぶ桜をバックに、まっすぐこちらを見つめる蜷川さん。その姿に、ほとんどの観客は立ち上がり、熱い拍手を送った。

ロンドンの人々の「ニナガワ」に寄せる

敬意と親しみ、そして哀惜の思いの深さが伝わってきた。

この様子を「ガーディアン」紙の批評家、マイケル・ピリントン氏は劇評の中でとりあげ、次のように記している。

〈実に類いまれなる作品だ。終演後、キャストと観客がともに偉大な演出家の遺影に称賛の拍手を送ったのも納得がいく〉

「ニナガワ」は、劇場の外でも注目されていた。

公演中の10月6日、ロンドンの日本大使館を会場に、記念シンポジウム「蜷川シェイクスピアをめぐって」が開かれた。

主催したのは日本の早稲田大学演劇博物

文●山口宏子（演劇記者）

ロンドンの観客の中に生きるニナガワ



『NINAGAWA・マクベス』 Photo©Piet Defossez

館とバーミンガム大学シェイクスピア研究所。日英両国の演劇研究者、専門家が集まり、蜷川演出がシェイクスピア上演にどのような新しい地平を切り開いたかなどについて、活発な意見を交した。

翌7日にはロンドン市内の大学を会場に、英国公演の共催者でもある国際交流基金が、「蜷川幸雄の仕事、生涯、そして遺産」と題するセミナーを開いた。

私はそこで話をしたのだが、学生から年配の演劇愛好家まで、幅広い世代のロンドンの人々が蜷川さんに寄せる関心の高さに、改めて驚いた。

レクチャーでは、埼玉県川口市に生まれ、20歳で俳優としてスタートした蜷川さんの生涯をたどりながら、代表的な作品と活動を紹介した。

大半の聴衆は、数々のシェイクスピア劇などを通して、美しく斬新な舞台を作る「ニナガワ」をよく知っていた。だが、その生いたちや「アングラ」時代、シェイクス

ピア以外の海外戯曲にどう取り組んだか、稽古場での様子などについても、強い興味を示してくれた。

「ニナガワさんは政治的にはどのような立場だったのか。それは年齢によって変化したのか」「舞台と観客とのコミュニケーションをどう考えていたのか」といった質問が相次いだ。

特に聴衆を沸かせたのは、「さいたまゴールド・シアター」の活動だ。公演映像の一部を上映すると「信じられない舞台だ!」「ニナガワさんが、こういう活動もしていたとは」「ぜひロンドンでも公演してほしい」といった声が次々とあがる。

蜷川さんをもっと知りたい。より深く理解したい。会場から伝わってくるのは、そんな強い気持ちだった。「ニナガワさんの舞台を字幕なしで理解したいから、日本語の勉強を始めます」と熱心に語る中年の女性もいた。

話の中で、蜷川さんが信頼を寄せていた

同時代の劇作家、清水邦夫さんや唐十郎さんらとの作品も紹介した。聴衆は、「ニナガワ」を介して、日本の現代演劇にも心を動かされたようだった。

日本語で書かれた優れた戯曲を海外の人たちに知ってもらうのに、こういうやり方もあるのだということを、ロンドンの人たちの反応に教えられた。

3月に彩の国さいたま芸術劇場で上演される『ムサシ』も、海外に広がった戯曲の一つだ。この、現代日本を代表する劇作家、井上ひさしさん晩年の傑作は、ロンドン、ニューヨーク、シンガポール、ソウルなどで上演されてきた。

「恨みの連鎖を断つ」「殺すな、殺されるな」「生きる」

不寛容が広がり、ひび割れた世界に向けて放たれた、祈りにも似た劇作家の言葉は、蜷川演出に乗って、切実に、そして確かに、世界の観客とつながってきた。それはこれからも続くに違いない。

蜷川幸雄三回忌追悼公演
『ムサシ』

3.3(土)～11(日)

彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

[作] 井上ひさし(吉川英治「宮本武蔵」より)

[演出] 蜷川幸雄

[音楽] 宮川彬良

[出演] 藤原竜也、溝端淳平、鈴木 杏、六平直政、吉田鋼太郎、白石加代子、大石継太、塚本幸男、飯田邦博、堀 文明、井面猛志

チケット(税込) 一般 S席10,500円 A席8,500円

U-25(25歳以下対象・前売のみ取扱・当日引換券・要証明書)5,000円

※本公演はメンバーズ料金の設定はございません。

※当日券あり(現金のみの取扱い)。

[ご予約・お問合わせ] ホリプロチケットセンター
03-3490-4949 (月～金10:00～18:00/土10:00～13:00/日祝休)

	3	4	5	6	7	8	9	10	11
	土	日	月	火	水	木	金	土	日
13:00	●							●	●
13:30									
18:00	●							●	
18:30									

【上海公演】

3.29(木)～4.1(日) 上海文化広場



ロンドン市内の大学で開催されたセミナーの様子 写真提供©国際交流基金ロンドン日本文化センター



岩井 秀人

Hideto Iwai

劇作家・演出家・俳優。2003年ハイバイを結成。2007年より青年団演出部に所属。東京であり東京でない小金井の持つ「大衆の流行やムーブメントをあこがれつつ引いて眺める視線」を武器に、家族、引きこもり、集団と個人、個人の自意識の渦、等々についての描写を続けている注目の劇団ハイバイの主宰。2012年NHKBSプレミアムドラマ『生むと生まれるそれからのこと』で第30回向田邦子賞、2013年『ある女』で第57回岸田國土戯曲賞を受賞。代表作『ヒッキー・カンクーンترلネード』『おねがい放課後』『て』。

岩井秀人×さいたまゴールド・シアター

『ワレワレのモロモロ ゴールド・シアター2018春』



さいたまゴールド・シアター第7回公演『薄い桃色のかたまり』 Photo©宮川舞子

の中で出会ってきた悲喜こもごもを自ら台本にし、演劇化。そこには、年老いても演劇で人生を燃焼しようとする老人たちのリアリティーや、若者に伝えるべき重い言葉も重ねられていくだろう。すでにワークショップは開始しており、初の脚本執筆などに挑むメンバーたちは、新たな経験にとまどいながらも、果敢に取り組んでいるとか。

また、創作過程に密着したドキュメンタリーの同時上映も予定している。舞台作品そのものと同時に、創作をする過程で出演者が何を感じるかを垣間見ることができる試みにも注目したい。

蜷川氏は「年齢を重ねるということは、さまざまな経験を、つまり深い喜びや悲しみや平穏な日々を生き抜いてきたということの証でもあります。その年齢を重ねた人々が、その個人史をベースに、身体表現という方法によって新しい自分に会うことは可能ではないか？ということが、私が高齢者の演劇集団を創ろうと思った動機です」と語った。

まさにこれは、一人ひとりの生々しい〈個人史〉が反映されそう。とどまることを知らないさいたまゴールド・シアターの動きにも注目だ。

発売日 一般 2.17(土) メンバーズ 2.9(金)

さいたまゴールド・シアター番外公演 『ワレワレのモロモロ ゴールド・シアター2018春』

5.10(木)～20(日)
彩の国さいたま芸術劇場
NINAGAWA STUDIO(大稽古場)

[構成・演出] 岩井 秀人
[出演] さいたまゴールド・シアター

チケット(税込) 全席自由(整理番号付)
一般 3,500円 メンバーズ 3,200円
U-25* 2,500円

5.10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20
木 金 土 日 月 火 水 木 金 土 日
14:00 ———●——— 休 ———●———
19:00 ———●——— 演 ———●———

☆ドキュメンタリー上映あり ※詳細は後日発表

*U-25チケットは公演時、25歳以下の方が対象です。
入場時に身分証明書をご提示ください。

世界最前線の演劇×さいたまネクスト・シアター 待望の新シリーズがスタート!

2018年から彩の国さいたま芸術劇場では、新たな取り組みが次々とスタート。その一つが、さいたまネクスト・シアターによる新シリーズ「世界最前線の演劇」だ。これは、戦争、テロ、難民問題など、ますます混沌としていく世界情勢、そのまっただ中を描いた同時代演劇を上演する企画で、戯曲の中に響きわたる、ヒリヒリした日常を生きる彼らの「声」を立体化し、私たちと世界とのかかわりを演劇で模索する試みだ。

1作目は、モロッコ系移民2世というバックグラウンドを持つベルギー出身の作家イスマエル・サイディによる『ジハード』。ジハード(聖戦)に参戦することを決意し、ブリュッセルから内戦が続くシリアへ向かう移民2世の若者3人を描いた同作は、宗教や人種によって偏見や差別に苦しむ彼らのリアルを映し出す。2014年にベルギーで初演されて話題を呼び、現在もヨーロッパ各地で上演され続けられているという、現在進行形で世界とつながる作品だ。

2作目は、『第三世代』。ユダヤ人大量虐殺やナクバ(大災厄。シオニスト政権イスラエルによる占領の日)を経験した世代から三代目に当たる〈第三世代〉が背負うアイデンティティ問題を扱った戯曲で、初演は2009年ベルリンだ。ドイツのシャウビューネ劇場とイスラエルのハビマー劇場との共同企画により製作された作品で、作家のヤエル・ロネンも1976年エルサレム生まれの第三世代だとか。

いずれも国際演劇協会日本センターが開催しているリーディング「紛争地域から生まれた演劇」シリーズで取り上げられた戯曲で、舞台として立体化するのはこれが初めて、つまり今回が日本初演だ。演出はリーディングと同じく、『ジハード』を瀬戸山美咲(ミナモザ)、『第三世代』を中津留章仁(TRASHMASTERS)といった、気鋭が手がける。

世界の動きに呼応した最新の戯曲、演劇界で活躍する若き演出家たち。蜷川幸雄氏のもとで古典を上演してきたネクストにとって、新たな挑戦の始まりだ。



瀬戸山 美咲

Misaki Setoyama

1977年、東京都生まれ。2001年、ミナモザを旗揚げ。現実の事象を通して、社会と人間の関係を描く。2016年、『彼らの敵』で第23回読売演劇大賞優秀作品賞受賞。劇団外の活動に『埒もなく汚れなく』『始まりのアンティゴネ』(ともに作・演出)、『グリーンマイル』(上演台本・演出)など。世田谷パブリックシアターのワークショップなどコミュニティの人々をつくる演劇にも継続的に携わる。また、『アズミ・ハルコは行方不明』(監督:松居大悟)、『リバーズ・エッジ』(監督:行定勲)などの映画脚本も手掛ける。



NINAGAWA STUDIO



Photo©小川重雄

蜷川幸雄氏が数々の名作を生み出し、演出家と名優たちの汗と格闘の歴史がしみこむ、彩の国さいたま芸術劇場の大稽古場「NINAGAWA STUDIO」。ここは本公演の稽古をする場だけではなく、時に、ゴールド・シアターやネクスト・シアターによる実験的かつ先鋭的な作品を上演する場にも使われてきた。2018年度よりここを拠点にした、新たな表現を見つけるプロジェクトをスタートする。

発売日 一般 3.24(土) メンバーズ 3.17(土)

さいたまネクスト・シアター^{ゼロ} 世界最前線の演劇1 『ジハード -Djihad-』

6.23(土)～7.1(日)
彩の国さいたま芸術劇場
NINAGAWA STUDIO(大稽古場)

[作] イスマエル・サイディ
[翻訳] 田ノ口誠悟
[演出] 瀬戸山美咲
[出演] 堀 源起 堅山隼太 鈴木彰紀 / 小久保寿人

チケット(税込) 全席自由(整理番号付)
一般 3,000円 メンバーズ 2,700円
U-25* 2,000円

6.23 24 25 26 27 28 29 30 7.1
土 日 月 火 水 木 金 土 日
14:00 ———●——— 休 ———●———
19:00 ———●——— 演 ———●———

*U-25チケットは公演時、25歳以下の方が対象です。
入場時に身分証明書をご提示ください。

2018年11月上演 世界最前線の演劇2『第三世代』

[会場] 彩の国さいたま芸術劇場
NINAGAWA STUDIO(大稽古場)
[構成・台本] ヤエル・ロネン
[翻訳] 新野守広
[演出] 中津留章仁
[出演] さいたまネクスト・シアター

※詳細が決まり次第発表いたします。

過去のネクスト・シアタースタジオ公演

ザ・ファクトリー4
さいたまネクスト・シアター
『ヴォルフガング・ボルヒェルトの作品からの九章
—詩・評論・小説・戯曲より—』 Photo©宮川舞子

——子ども向け演劇を手がけるのは初めてですね。

はい、実は以前からやってみたいと思ってはいたんです。僕はこれまで、さまざまな公共劇場と一緒に作品をつくってきましたが、そこでは、都内でのマームとジブシー公演とは違う客層や年齢層に出会えます。そうなってくると自然と、自分とは違う世代に作品をどう届けるのかということに興味がわいてくる。つまり僕の作品が、どこまで幅を広げられるか、ということを考えるようになりました。そういう意味で

子ども向け作品は、さらに下の層を広げるためにチャレンジしてみたかったジャンルでもあって。昨夏、彩の国さいたま芸術劇場で、中学生から20歳までの人たちのワークショップ公演『ハロースクール、バイバイ』をつくりました。その時に面白いなと思ったのは、中学生と高校生でも、通じる言葉が違うということ。ですから現在の初動の気持ちとしては、〈子ども向けの意義深い企画をやろう〉よりも、演劇表現についての好奇心です(笑)。

——現時点での構想を教えてください。

今ぼんやり考えているのは、舞台と客席の境界線をあいまいにして、客席を完全にフラットにした空間。来場した子どもたち

子どもたちと、見えないモノを探る 藤田貴大 Interview

『めにみえない みみにしたい』

若者たちとのワークショップ公演『ハロースクール、バイバイ』など、彩の国さいたま芸術劇場で新たな演劇の可能性を見せている藤田貴大。彼が初めて、子ども向け演劇をクリエイションする。挑戦に向けての構想は、〈子ども向け〉の枠におさまらない、斬新な感触を持つものとなりそうだ。

取材・文 ● 川添史子 Photo ● 片山貴博

藤田貴大

Takahiro Fujita

1985年北海道伊達市生まれ。マームとジブシー主宰。演劇作家。桜美林大学文学部総合文化学科にて演劇を専攻。2007年にマームとジブシーを旗揚げ。象徴するシーンのリフレインを別の角度から見せる映画的手法が特徴。『かえりの合図、まてた食卓、そこ、きっと、しおふる世界。』で第56回岸田國士戯曲賞、『cocoon』(2015年再演)で第23回読売演劇大賞優秀演出家賞を受賞。



発売日 一般 2.24(土) メンバーズ 2.17(土)

『めにみえない みみにしたい』 [作・演出] 藤田貴大 [出演] 伊野香織、川崎ゆり子、成田亜佑美、長谷川洋子

【さいたま公演】

4.29(日・祝)～5.6(日) 彩の国さいたま芸術劇場 小ホール

4.29 30 5.1 2 3 4 5 6
日・祝 月・休 火 水 木・祝 金・祝 土・祝 日
11:30 ——— 休 ———
15:00 ——— 演 ———

※開場は開演の20分前。 ※上演時間は約60分(予定)。

チケット(税込) 全席自由

大人(19歳以上)2,000円 子ども(4歳以上)1,000円

※本公演はご鑑賞エリアが分かれており、客席前方が12歳以下、客席後方が13歳以上のご鑑賞エリアとなります。

※開演時間に遅れますと客席後方の13歳以上のエリアでのご鑑賞になる場合がございます。 ※4歳未満の乳幼児のご入場はご遠慮ください。

【吉川公演】

5.12(土)・13(日) 吉川市民交流センターおあしす 多目的ホール

5.12 13
土 日
11:30 ———
15:00 ———

※開場は開演の20分前。 ※上演時間は約60分(予定)。

チケット(税込) 全席自由

大人(19歳以上)1,500円 子ども(4歳以上)500円

※本公演はご鑑賞エリアが分かれており、客席前方が12歳以下、客席後方が13歳以上のご鑑賞エリアとなります。

※開演時間に遅れますと客席後方の13歳以上のエリアでのご鑑賞になる場合がございます。 ※4歳未満の乳幼児のご入場はご遠慮ください。

にも衣裳を着てもらって、彼らも含めた芝居の風景になっていたら面白いなと。子どもたちに、「自分たちが参加しているから、この作品が成立しているんだ」ということを思わせたら成功……というイメージというか。

——女優が4人出演しますね。

まだ彼女たちにいわゆる〈役〉を演じてもらうかどうかは決めてないんですけど、劇の入り口からフィクションを演じていくのではなく、冒頭は「なんかよく分からないけれど一緒にいるお姉さん」という感じで始まるのはどうかな?と思っています。この取材に来る直前に、この『めにみえない みみにしたい』というタイトルを思いついたんです。今って、どんどん具体性や分かりやすさを求める世界じゃないですか。明確であるほうがキャッチーだし、



そのほうが子どもたちも作品を受け入れやすい。その良さも分かるけれど、すでに世の中はそういうもので溢れていますし、それとは違う、何か目に見えないのを探ってもらいような、抽象性のある劇はどうか。例えば影が出て、その正体は目に見えない。動物の鳴き声だけが聞こえる……みたいなことが連続していったり、設定する場所がおぼろげに分かれれば、それだけで演劇は成立する気もしていますしね。その抽象的な何かをつかもうとする子どもの姿を、保護者として一緒に来た大人たちが見て、楽しんでもらえるかもしれないし。

——小さいときに見聞きしたものって、子どもの時は意味も分からず受け入れて、あとから分かってくることっていっぱいありますよね。

そうそう、子どもと仕事する時っていつもそのことを考えるんです。大人がいろいろ考えて意味づけしても、子どもたちは全然違うものを見て、感じているし。もちろん劇場で「楽しかった」と思わせることは大切だけど、未来にその子たちが思うことに期待するようなことをやってみたい。家に帰って「あれは何だったんだろう?」と考え続けたいようなものというか。演劇って映像で巻き戻せるわけじゃなくて、舞台上の質感が頭や身体の中に残って「あの時、すごく感動した感じになったけど、なんでだろう?」とか、感触だけを頼りにしか再生されないじゃないですか。その面白さをiPad世代の子たちに見せるのは挑戦だと思っています。

藤田貴大の好きな絵本

『ねないこ だれだ』は小さなころから大好きでした。「手元に持っておかないと!」と思うせいか、この間片付けていたら家に4冊もあって(笑)。幼稚園の先生をしていた母親からはずっと、絵本の読み聞かせをしてもらっていました。僕はセリフを口伝で役者にわたしていくのですが、幼少期に文字ではなく音として言葉を認識したことが影響したのかもしれないですね。



作・絵：せなけいこ 出版社：福音館書店



きりりとポーズを取ったり武術の型を取り入れながら、円陣を組むフォーメーションを創作

2017年度 MEET THE DANCE

～アーティストが学校にやってくる！

実施校：三芳町立三芳東中学校

対象：3年生男女74人

講師：北村明子

取材・文 ● 川添史子 Photo ● matron2017



北村 明子

Akiko Kitamura

ダンサー・振付家。早稲田大学大学院修了、信州大学人文学部 芸術コミュニケーション講座准教授。バレエ、ジャズダンスを学び、高校時代にはストリートで踊る。10代で振付家デビュー。1994年にレニ・パッソを結成、早稲田大学在学中の1995年文化庁派遣在外研修員としてベルリンに留学。その後も欧米各地で活躍、海外振付作品・出演も積極的に行い、各地で高い評価を得る。CMへの振付や映画出演でも活躍。2004年にはインドネシアの伝統武術ブンチャック・シラットに出会い、自身の身体表現に取り入れていくこととなる。2011年インドネシアとの国際共同制作To Belong projectを開始。2015年よりアジア国際共同制作プロジェクト Cross Transitも始動し、世界各地に活躍の幅を広げている。



こんなに足を高く上げ、キックを繰り出すのも初めて！



女子たちも、格闘のような動きをダンスに応用！



北村氏から、全体の動きの流れを説明。真剣なまなざしの生徒たち



思いっきりジャンプ！体育館が狭く感じるほどの迫力

プロのダンサーや振付家を中学校に派遣し、身体を使って表現する楽しさや多様性、コミュニケーションの豊かな可能性を体験する機会を子どもたちに届ける彩の国さいたま芸術劇場のアウトリーチ事業「MEET THE DANCE～アーティストが学校にやってくる！」。2017年度は、講師にダンサー・振付家として活躍する岩淵多喜子氏と、北村明子氏を迎え、埼玉県内の中学校3校でプログラムを実施した。

12月中旬、三芳町立三芳東中学校で開催された北村氏による授業を見学。これは3年生の男女（全74人、2クラスに分かれて実施）を対象に行われたもので、この日は、6日間にわたるワークショップの最終回、合同成果発表の日だった。

体育館に入ってきたのは、大勢のブルージャージの生徒たち。彼らは1組5人から7人ほどのグループに分かれて創作を行ってきた。発表会を前に最後の仕上げを行う彼らの様子を見ると、太極拳やカンフーのような動きが多い。聞くと、北村氏の発案でインドネシアの武術を元にしたダンス・ワークショップを重ねてきたそうで、

前半の授業では武術の動きを色々と学び、キレのある俊敏な動きを覚えた。この日は北村氏から「みんなの様子を見てみると、動きがある種〈型〉に縛られている。前に突きだしたグーをパーにするだけでもいいので、教えた動きを崩していてもいい」というアドバイスが入る。それを受け「じゃあ、こういうのは？」と仲間同士で相談し合う姿は微笑ましい。イスを使った難易度の高い動きに挑戦し始めたグループも！「創作ダンス」というと、男子は気後れしちゃって……という現場も見かけるが、武術が入っているためか、女子と一緒に生々生々として共同作業をする印象も受けた。

練習が終わり、なんと、和太鼓奏者・辻勝氏の太鼓生演奏に合わせるという贅沢な発表がスタート！北村氏いわく「場所によって音もカウントも微妙に変容していく日本の打楽器をコンテンポラリーダンスに混ぜたかった」とのこと。ダンスに合わせてリズムも寄り添っていき太鼓の勇壮なりズムに乗せて、各グループ、入れかわり立ちかわり、次々と成果を披露していった。生徒

は緊張しながらも笑顔でのびのびと動き、実に楽しそう。若いしなやかな動きが繰り出され、見学の生徒たちからも、歓声、時に笑い声が起こり、体育館は大盛り上がり。この冬一番の寒い朝というニュースが流れた日だったが、彼らの上気した顔には冷気も吹き飛ばすエネルギーが満ちていた。

発表会が終わり北村氏からは「短い時間でのクリエイションでしたが、どのグループも迫力があって良かったです」という挨拶。生徒からは「ほかのチームを見て、思いつかなかった動きを見つけました。もっとやりたい」「武術の動きはやったことがなかったので新鮮でした」「意見を出し合って作品を創るのが楽しかったです」といったさまざまな感想が伝えられ、最後は生徒全員で「ありがとうございました！」という大きなお礼と拍手。身体に向き合う充実した時間を過ごしたことが伝わってきた。



すべての発表が終わり、北村氏の講評に耳を傾ける生徒。お互いに拍手を贈り合う

Noism1 『NINA－物質化する生け贄』

2005年の初演以来、8カ国18都市で喝采を得た、Noismの初期代表作が埼玉に登場。
東アジアツアーを経て9年ぶりに日本凱旋を果たす同作の美しさを目撃せよ。

文●岡見さえ（舞踊評論家） Photo◎Kishin Shinoyama

多彩な技術に彩られた振付

日本で唯一の公立劇場付属舞踊団であるNoismは、金森穰を芸術監督として2004年の誕生以来、新潟を拠点に国内外で個性的な活動を展開している。彩の国さいたま芸術劇場は、これまでもNoism作品を上演しており、昨夏の『Painted Desert』と『Liebestod－愛の死』のダブルビルも記憶に新しい。

金森の振付作品は非常に多様性に富んでいる。スタイリッシュな、感情を豊かに表現するエモーショナルな作品、古典バレエの再解釈、劇作家や俳優と協働した劇的舞踊……。深まり続ける金森の思索の痕跡を示す作品群でも、『NINA－物質化する生け贄』は特別な位置にある。2005年の初演から改版しつつ国内外で再演を繰り返し、バリ公演以来7年ぶりの上演となる今回は、衣裳に東京ブランド・SOMARTAの廣川玉枝を迎え、出演者も若手に一新される。

未知なる身体を提示する恐るべき強度のダンス——それが初見の印象だった。作品の主題は、観客の視線の「生け贄」たる物質＝身体であり、音楽も美術も照明も極限まで削ぎ落とした空間で、10人の男女の強靱な身体が、多彩な技術を駆使した振付を踊る。感情表現や物語は戦略的に排除され、演劇的な要素もない。だがそれゆえに、身体の強度、舞踊の純度が際立つのだ。

無機質に粒立つ音に反射する緊張に満ちたソロ、デュオ、アンサンブル、謎めいたフィギュアを静かに連ねるパッセージと、バレエからアクロバティックな動きまで取り入れたヴィルチュオーズのダンスが、速さと緩やかさ、軽さと重さと自在に戯れながら展開する。そして衝撃的なのは、こうしたダンス・クラシックの技術を前提とした動きの極北にある、意志を持たず、外部の

力に身をまかせるマネキンのような、特異な身体性だ。床に倒れた女性が、パートナーのわずかな補助で身体を硬直させたまま起立し、向きを変え、ふたたび音もなく床に沈む。秘かに漲る力を譜えた四肢が、外部から力を加えられ空間に放たれ、風を切って鋭い動線を描く。他のカンパニーにはない、奇妙に優雅な美しさがそこにはある。

優美さを放つ『NINA』の踊り手たち

その基盤にあるのは「Noismメソッド」と呼ばれる金森独自の身体訓練法だ。足裏で床をぴったりと捉え、そこから膝、骨盤、肋骨、肩、肘、手首、指へとエネルギーを上方向に繋げ、身体の自然な運動と拮抗する力とする。さらに骨盤の前後を床と平行に

意識し、足元から螺旋を描き上昇するエネルギーの軸を身体内部に想定する。そうして身体内部にある複数の拮抗する力が制御可能となり、硬さと滑らかさを自在に操り外部空間と関係するNoismの振付を踊る身体が完成される。「鍛え抜かれた身体を持つ、プロフェッショナル・カンパニー」の矜持がそこにある。

日本でクラシック・バレエを学び、10代でヨーロッパに旅立ちネオクラシック、コンテンポラリーを踊るバレエ団で20代を過ごした金森が、バレエの歴史と、日本人として意識する固有の身体性の考察からこのメソッドを築いたということは、興味深い。重力のない身体の幻影を作るため、バレエは爪先立ちや上方向の身体性を追求し

たが、日本では床に足を擦る歩行や低い重心の設定によって、この世のものならざる存在を表現した。さらに舞踊外の実践、すなわち地面と足の関係や歩行という行為の意味から独自の演劇論を展開する鈴木忠志の仕事も、金森に影響を与えている。

『NINA』を見て、ふと思い出した小説がある。ドイツの作家ハインリヒ・フォン・クライストが1810年に発表した短編、『マリオネット劇場について』だ。語り手の「私」と、オペラ座の首席舞踊手「C氏」との対話からなる物語で、C氏は私に人形芝居のマリオネットこそ理想のダンサーだと主張する。なぜなら糸で吊られた人形は重力から自由でどんな動きも可能であり、

チケット発売中

Noism1
『NINA－物質化する生け贄』

2.17(土)17:00、18(日)15:00
彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

[演出振付]金森穰
[音楽]トン・タツ・アン
[衣裳]廣川玉枝 (SOMA DESIGN)
[椅子]須長植
[オリジナル照明デザイン]金森穰、森島都絵
[リハーサルディレクター]井関佐和子
[出演]Noism1 / 中川賢、池ヶ谷奏、吉崎裕哉、浅海信加、チャン・シャンユー、坂田尚也、井本星那、鳥羽絢美*、西岡ひなの*、山田勇気 (特別出演) *＝準メンバー

チケット(税込) 全席指定 一般5,500円
U-25* (枚数制限あり) 3,500円

[主催]公益財団法人新潟市芸術文化振興財団
[共催]公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団

*U-25チケットは公演時、25歳以下の方が対象です。
入場時に身分証明書をご提示ください。

Noism1
(ノイズムワン)
www.noism.jp

りゅーとびあ 新潟市民芸術文化会館を拠点に活動する日本初の公共劇場専属舞踊団。演出振付家・舞踊家の金森穰がりゅーとびあ舞踊部門芸術監督に就任したことにより2004年に設立。モスクワ・チェーホフ国際演劇祭との共同制作や、サイトウ・キネン・フェスティバル松本のオペラ&バレエへの出演など、国内や海外各地で多岐に渡って活動している。舞踊家たちの圧倒的な身体と鋭い問題意識に裏打ちされた作品、新潟から世界を見据えたカンパニー活動は、21世紀の新たな劇場文化のモデルとして各方面から注目を集めている。

金森穰
Jo Kanamori

Noism 芸術監督／りゅーとびあ舞踊部門芸術監督
舞踊家、演出振付家。17歳で単身渡欧、モーリス・ベジャール等に師事。オランダのネザーランド・ダンス・シアター2在籍中に20歳で演出振付家デビュー。10年間欧州の舞踊団で活躍後帰国。2004年、りゅーとびあ舞踊部門芸術監督に就任し、日本初の劇場専属舞踊団Noismを立ち上げる。

自我を持たず自分を飾らないから。Noismメソッドによって身体内部に複雑な重心を獲得して無重力的な跳躍や回転を行い、意識と運動の中心を一致させることで人為を超えた優美さを放つ『NINA』の踊り手たちの印象は、どこかC氏の理想身体に重なって見えないだろうか。

西と東、舞踊と演劇、意識と無意識、野生と文明の対話の結節点に、200年にわたって夢想されたダンスが出現する。だから『NINA』は、あらゆるジャンルのダンスのみならず、演劇、文学、そして芸術に関心を持つすべての人にとって見逃せない舞台なのだ。

MURRAY PERAHIA

人生をかけた誠実さ ——マレイ・ペライアとの再会に寄せて

現代最高峰のピアニストのひとり、マレイ・ペライア。
2013年のリサイタルで、作曲家、演奏家、聴衆、三者の心が通じ合う
稀有な音楽体験をもたらしてくれた巨匠が、再び彩の国にやってくる。
作品に真摯に向き合うペライアの円熟の音楽をこの春、じっくりと味わいたい。

文●青澤隆明（音楽評論家）



Photo©Felix Broede

マレイ・ペライア（ピアノ）

Murray Perahia

コンサート・ステージで40年以上ものキャリアを積み重ね、現在聴衆から最も愛されるピアニストのひとり。これまであらゆる一流オーケストラと共演、アカデミー室内管弦楽団（ASMF）の首席客演指揮者も務め、同楽団の指揮者兼ピアニストとして欧米、アジアで活発に公演を行っている。幅広く多彩なディスコグラフィを誇り、2016年10月にはドイツ・グラモフォンによるペライアの初のアルバム、バッハ《フランス組曲》をリリース。2018年2月14日には、ベートーヴェンの「ハンマークラヴィーア」と「月光ソナタ」収録の待望の第2弾が発売予定。

彩の国のリサイタルは特別な体験

マレイ・ペライアが彩の国さいたま芸術劇場で初めて演奏してから、はやくも4年余りがめぐった。そのときのリサイタルは私にとって特別な体験で、以来、このホールでの次の機会をずっと待ち望んできた。その間、いろいろなことがあった。どんなときでも、この地上のどこかでマレイ・ペライアがピアノを弾いているということが、どれだけ頼もしく思えたことだろう。

あれは2013年10月19日の午後、音楽ホールでのリサイタルだった。大ホールでの演奏とは違い、ホール空間を充たす親密さのなかで語られたペライアのピアノには、より直接的に作品と奏者の内心に迫るような真摯な率直さがあった。その3か月ほど前に全曲録音も手がけたバッハの《フランス組曲》の第4番で始まり、ヘンレ版全集の楽譜校訂に長らく携わるベートーヴェンのソナタからは「熱情」、シューマンはかつてホロヴィッツと勉強したという《ウィーンの謝肉祭の道化》、ショパンは《即興曲》と《スケルツォ》のともに第2番が採り上げられた。アンコールでは、ショパンの2曲がシューベルトの《即興曲》作品90-2をはさむように演奏された。

コンサートを終えてすぐ、ペライアは再び舞台に出て、アフタートークで話をした。「音楽を学ぶのにいちばん重要なものは、音楽に対する愛情です」とペライアは語り、自己批評や絶えざる練習に耐え、この愛情を保つには、「音楽を聴くこと、和声や対位法など音楽の本質を学ぶのが大切なことだ」と言葉を継いだ。実直すぎるほどシンプルな発言だが、そのときのペライアの演奏を聴いた後に、これほどしっかりと響く言葉もないだろうと思えた。

もっとも重要なもの それは「誠実さ」

このときが同音楽ホール初登場で、以前にも二度ほど演奏会の予定はされていたから、まさしく「三度目の正直」ということになったわけである。もちろん、この言いかたはおかしくて、ペライアはいつも深く正直であるはずで、それは彼の演奏を聴けば、誰しもすぐにわかることだ。もっと言えば、ペライアほど正直や誠実という言葉に近い音楽家は、現代ではなかなかいないように思える。

だから、前回にいたるまでの二度の来日中止は、それだけ彼自身にとって困難な時期にあたっていたのだろう。具体的には手の故障からの復調に歳月を要したということなのだろうが、ピアノを弾けない時期にも、彼の傍らにはバッハの音楽があり、その研究を通じて音楽への敬愛と感謝をさらに深めることになった。その成果と信頼がいまに響いてくる。

数年前に彼の演奏の誠実さについて話したときも、「誠実さは、私にとってはもっとも重要なものです」とペライア自身が語っていた。「正直でないものは、信頼することができない。もしもメッセージを交わそうとするなら、それは率直なものでなければなりません。すべての偉大な作曲家はつねに深いところで正直です。演奏家

もそれを伝えるべきです。演奏家のエゴなど重要ではない。作曲家の感情とコミュニケーションをとり、彼らの人生を生きようと努めなくてははいけないのです」。

この世に純粋なものなどない、と苦く謙虚に語りつつ、ペライアはまだこうも言った、「私たちは純粋なものを目ざしている。ですが、いつもそこには人間らしい不安定さや人間的な失敗がある。それは人生の一部で、音楽の一部でもあります」。

ペライアのピアノには、喜びや苦節のいっさいを包むように、彼の人生をかけた誠実さが温かく滲んでいる。

604席のホールで聴くペライアの探求

さて、このホールの舞台はしばらくぶりとなるが、うれしいことにペライアはその後も度々日本を訪れて、2014年には首席客演指揮者を務めるアカデミー・オヴ・セント・マーティン・イン・ザ・フィールズ（アカデミー室内管弦楽団）を弾き振りし、翌年にはベルナルト・ハイティンクの指揮でロンドン交響楽団と共演した。これらの機会にはモーツァルト、バッハ、ベートーヴェンの協奏曲を演奏したが、春のリサイタルには彼らの独奏曲が集められている。さらに2016年10月には東京で2度リサイタルを行い、ベートーヴェンの変ロ長調ソナタ作品106ほかを演奏したが、彩の国さいたま芸術劇場への再登場では、偉才のソナタ創作の終着点となるハ短調作品111が聴ける。それはもちろん、ペライア長年のベートーヴェン探求の大きな焦点となるだろうし、彩の国で前回演奏したハ短調ソナタ作品57「熱情」の先へと行き着く旅にもなる。

待望のリサイタルの始まりには、バッハの《フランス組曲》から今回は第6番ホ長調が選ばれ、1980年の名録音も懐かしいシューベルトの《即興曲集》作品142が続く。モーツァルトのイ短調ロンドKV 511は、ベートーヴェンの後期ソナタ同様、ディスクではまだ発表されていないはずだ。バッハから、モーツァルト、ベートーヴェンとシューベルトへの鉅脈の奥行きが、ペライアの実直な取り組みを通じて、じっくりと示されることになるだろう。

初めてのこのホールを訪れた秋、リサイタルを終えたペライアは静かに客席に語りかけた。「私も今日ここに来られて本当に嬉しく思います。どうもありがとう」。そうした幸福な記憶が、この春にも重ねられるといい。懐かしい信頼の響きのうちには、いつもどこか新しい始まりが聞きとれるものである。

チケット発売中

マレイ・ペライア ピアノ・リサイタル

3.21（水・祝）開演15:00 彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール

【曲目】J. S. バッハ：フランス組曲 第6番 ホ長調 BWV 817

シューベルト：即興曲集 D 935（作品142）

モーツァルト：ロンド イ短調 KV 511

ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ 第32番 ハ短調 作品111

チケット（税込）一般 正面席10,000円 メンバーズ 正面席9,000円

※バルコニー席・U-25は予定枚数終了

「ピアノ・エトワール・シリーズ」 新星ピアニスト3人の輝き

これからのピアノ界をリードする若手スター・ピアニストたちが登場し、
挑戦的なプログラムを披露する「ピアノ・エトワール・シリーズ」。

2018年度は、ショパン国際ピアノ・コンクール、ヴァン・クライバーン国際ピアノ・コンクール、
エリザベート王妃国際コンクール、と世界の難関コンクールで上位入賞を果たした3人がやってくる。
世界が注目するピアニストたちの音楽性と聴きどころをご紹介します。

文●高坂はる香 (音楽ライター)

ショパン・コンクール第2位で話題 シャルル・リシャール＝アムランの温かな音

コンクールをきっかけに、魅力的なピアニストが次々現れる昨今。すてきな音楽との出会いを求め、ピアノファンの間で話題になっている若者の公演に足を運び、自分の耳で確かめていくのは、楽しい。彩の国さいたま芸術劇場の「ピアノ・エトワール・シリーズ」では、そうして聴いてみて良かったと思えるすばらしい才能が、これまでもたくさん紹介されてきた。

2018～19シーズンのラインナップは、カナダ、アメリカ、フランスの、いずれも20代で人気急上昇中の男性ピアニストたち。

まず6月、一人目に登場するのは、シャルル・リシャール＝アムラン。2015年のショパン国際ピアノ・コンクールで第2位に輝き、一躍注目を集めたピアニストだ。

1989年、カナダのケベック州に生まれ、アマチュアピアニストの父の手ほどきでピアノを始めたという彼は、5歳から正式なピアノ教育を受け、モントリオール音楽院で学んだ。最近は、ティーンエイジャーのうちからあちこちのコンクールに挑んでキャリアを積み若者が多いが、彼の場合は、初めての国際コンクールも20代半ばになってから。しかし、その後参加したソウル国際（第3位）、モントリオール国際（第2位）、そしてショパン国際という3つのコンクールすべてで上位入賞。じっくり音楽性を育み、ついに頭角を現したタイプだ。

リシャール＝アムランの音楽の魅力のひとつは、やわらかく広がってゆく温かい音。その容姿に似合った包容力のある表現をしたかと思うと、ときに内に秘めた感情を放出するかのような、激しい情熱も見せる。

今回は、プログラムも意欲的だ。モーツァルトの《幻想曲》、ショパンの4つの《即興曲》、そして20世紀アルメニアの作曲家、ババ



シャルル・リシャール＝アムラン Photo©Elizabeth Delage

ジャニアン的小品で、古典派からロマン派、近現代までの作品を網羅する。

加えて演奏するのは、ショパンの《バラード》全4曲。ショパンの祖国への想いとポエティックな感性が存分に込められた、ドラマ性に満ちた作品だ。ショパン・コンクール入賞以後、演奏経験を重ねる中でますます深められた、ショパンの心に寄り添う表現に期待したい。

若々しさと円熟が同居する21歳 ダニエル・シュエの不思議な魅力

そして10月、二人目に登場するピアニストは、1997年アメリカ、サンフランシスコ生まれのダニエル・シュエ。10歳からカーティス音楽院で学び、ラン・ランやユジャ・ワンの師としても知ら



ダニエル・シュエ Photo©Jeremy Enlow/The Cliburn

れるゲイリー・グラフマンや、エレノア・ソコロフのもと研鑽を積む。2017年にアメリカ、テキサス州で行われたヴァン・クライバーン国際ピアノ・コンクールで第3位に入賞。それ以前に、2015年の浜松国際ピアノ・コンクールで第3位となっていたので、日本ではいち早く注目されていた逸材だ。このとき演奏されたベートーヴェンのピアノ・ソナタ第31番について、当時の審査委員長だった海老彰子氏は「18歳であれほど円熟した演奏ができるのはなぜだろうと驚いた」と話していた。実際、彼の演奏には若々しさの中にも深い思索のあとが感じられ、不思議な魅力を放っていた。

プログラムは現在のところ未定だが、演奏会ではいつも「とにかく自分が弾きたいものを選び、作曲家が求めるものを理解するためにたくさんの時間を費やして、自分の物語を描いていく」というので、思いのこもった作品を集めてくれるに違いない。演奏を聴いていると、作品を通して言いたいことがあるのだと伝わってくるピアニスト。今後さらなる躍進が期待されるので、この機会に聴いておきたい。

バッハからストラヴィンスキーまで レミ・ジュニエの多彩な音色

来シーズンラストを飾る三人目は、1992年、フランス、モンペリエ生まれのレミ・ジュニエ。2013年、ベルギーのブリュッセルで行われたエリザベート王妃国際コンクールで第2位に入賞し、国際的な活動をスタートさせた。パリ国立音楽院で、名ピアニスト、故・ブリジット・エンゲラーの薫陶を受けたのち、エコール・ノルマル音楽院を経て、ハンブルク音楽演劇大学に留学し、エフゲニー・コロリオフのもと学んだ。フランスで生まれ育っているが、ロシア系の師のもとで研鑽を積んでいるので、ロシア音楽は身近なのだという。さらに最近はドイツものに積極的で、バッハやベートーヴェン



レミ・ジュニエ Photo©Jean-Baptiste Millot

の録音に取り組む。

今度のリサイタルでは、ロシアものからはストラヴィンスキーの《「ペトルーシュカ」からの3楽章》を演奏。加えて、バッハのカプリッチョや、ベートーヴェンのピアノ・ソナタ第23番「熱情」、ショパンの《マズルカ》作品17と、リシャール＝アムラン同様、幅広い年代の作品を披露する。スタイルごとに巧みに音色を使い分ける実力の持ち主なので、彩の国さいたま芸術劇場音楽ホールのような空間で、すみずみまでそのタッチの違いを聴くことができるのは嬉しい。自由な感性で、伸びやかな音楽を聴かせてくれることだろう。

年代も近く、著名国際コンクールをきっかけに注目を集めたという共通点はあるながら、個性がまったく異なる三人。シリーズを通して聴けば、三者三様の魅力を味わいながら、世界のコンクールで選ばれるピアニストのタイプの違いを聴くことにもなりそう。

【3公演セット券】チケット発売中

【Vol.34 1回券】発売日 一般 2.3(土) メンバーズ 1.27(土)

2018年度ピアノ・エトワール・シリーズ

Vol.34 シャルル・リシャール＝アムラン

Vol.35 ダニエル・シュエ

Vol.36 レミ・ジュニエ

彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール

【Vol.34 シャルル・リシャール＝アムラン】6.10(日)開演15:00

〔曲目〕モーツァルト：幻想曲 二短調 KV 397 (385g)

ショパン：即興曲 第1番～第3番、幻想即興曲

ババジャニアン：エレジー（アラム・ハチャトゥリアンの想い出）ほか

ショパン：バラード 第1番～第4番

【Vol.35 ダニエル・シュエ】10.28(日)開演15:00

曲目調整中

【Vol.36 レミ・ジュニエ】2019年1.12(土)開演15:00

〔曲目〕J. S. バッハ：カプリッチョ「最愛の兄の旅立ちに寄せて」BWV 992

ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ 第23番 ヘ短調 作品57「熱情」

ショパン：4つのマズルカ 作品17

ストラヴィンスキー：「ペトルーシュカ」からの3楽章

チケット(税込)

【3公演セット券】一般・メンバーズ 正面席9,000円

バルコニー席 7,500円／U-25*(バルコニー席対象)3,000円

【Vols. 34～36】各回 一般 正面席3,500円 メンバーズ 正面席3,200円

バルコニー席2,500円／U-25*(バルコニー席対象)1,000円

※Vol.35 発売日 一般 6月9日(土)／メンバーズ 6月2日(土)

※Vol.36 発売日 一般 8月11日(土・祝)／メンバーズ 8月4日(土)

*U-25チケットは公演時、25歳以下の方が対象です。入場時に身分証明書をご提示ください。

Report

EVENT



急速、柿澤も飛び入り参加し充実した稽古の様子をトーク



この日は彩の国シェイクスピア講座も大ホール舞台上で開講

彩の国シェイクスピア・シリーズ第33弾

『アテネのタイモン』関連イベントレポート

取材・文 ● 川添史子 Photo ● 宮川舞子 (イベント写真)

「彩の国シェイクスピア・シリーズ」2代目芸術監督に就任した俳優・演出家の吉田鋼太郎によるスペシャルトークイベントが、11月25日、彩の国さいたま芸術劇場で開催された。

シリーズ最新作『アテネのタイモン』の出演者である藤原竜也、柿澤勇人、横田栄司、谷田歩も参加し、役づくりについて、シェイクスピアの魅力について、現場の様子を和気あいあいとトーク。当日は大ホールの2階席まで観客でぎっしり、熱気高まる会場に吉田は「このステージに立つのは『ジュリアス・シーザー』以来、3年ぶり。ここからお客様でいっぱい光景を見るのはドキドキしますし、すごく幸せです」と挨拶した。藤原は「15歳での初舞台『身毒丸』もこの舞台でした。蛭川さんが亡くなり、ここに立つ機会はしばらくないと思っていましたが、すぐに呼んでもらえて嬉しい」と笑顔を見せ、仲間たちと埼玉で集結する喜びを分かち合った。主演だけではな

く〈演出家〉でもある吉田について出演者陣は「『申し訳ない』とってしまうぐらい、色んなことを教えてください、自分の出てない稽古も楽しくてずっと見てしまう」(横田)、「稽古開始前に『何か準備することはありますか?』と聞いたら『今のお前で大丈夫。俺が導いてやる』と言われ感動しました」(柿澤)、「(吉田が主宰する劇団)AUNに入団して以来、鋼太郎さんからさまざまなことを教わりました。シェイクスピアのセリフに振り回されないよう気をつけたい」(谷田)と語り、キャストが寄せる信頼感を感じさせた。

故蛭川氏の緊張感溢れる現場の思い出話も尽きず、彼らの苦闘エピソードに会場も大爆笑。『アテネのタイモン』のセリフの一部を披露して会場を沸かせる一幕も！最後に吉田から「蛭川さんの急逝で身体の一部をもぎとられたような気持ちになりましたが、遺してくださったものを大事にし、皆さんに喜んでいただけるような芝居

をしたい。『アテネのタイモン』をよろしく願い致します」と締めめの挨拶。会場を埋めた観客からは、大きな拍手が返ってきた。

トークイベント終演後は、全4回、約60名の受講者を対象として10月に開始した「彩の国シェイクスピア講座」の3回目も開催された。これは『アテネのタイモン』を学びつくすことを目的とし、河合祥一郎、松岡和子、北村紗衣、安達まみといったシェイクスピア研究第一線の講師陣を迎えた企画。この日は北村氏が、同作における〈政治と経済〉を解き明かし、知的好奇心溢れる受講者たちは真剣に話に耳を傾けていた。

トークイベントにシェイクスピア講座と、あらゆる角度から『アテネのタイモン』に迫り、観客の期待値もマックス。新たなスタートとなったシェイクスピア・シリーズの第一作は、順調にスタートした。



彩の国シェイクスピア・シリーズ第34弾

『ヘンリー五世』2019年2月上演決定!!

芸術監督・演出・出演：吉田鋼太郎 主演：松坂桃李

※詳細は決まり次第第発表いたします。

Review

レビュー

DANCE

バットシェバ舞踊団／オハッド・ナハリン
『Last Workーラスト・ワーク』
10.28(土)・29(日) 彩の国さいたま芸術劇場 大ホール



イスラエルのバットシェバ舞踊団が、日本初公開の作品を携えて来日。強靱なダンサーたちによる、人間離れた〈野生動物〉のような動き。群舞になってもそれぞれの魅力が見える強い個性。今回も、圧巻のエネルギーが放出される大胆な作品を見せつけてくれた。ラスト、ガムテープで動きを縛られながら、抑圧され、もがくように踊るダンサーたち。思わず政治的背景を重ねたくなるが、無駄に説明せず、解釈を観客に委ねるのが、オハッド・ナハリンの巧さだろう。冒頭から走り続けた青いドレスの女性が旗を振る姿は、ドラクロワの描いた「民衆を導く自由の女神」にも見えた。

PLAY

彩の国シェイクスピア・シリーズ第33弾
『アテネのタイモン』
12.15(金)~29(金) 彩の国さいたま芸術劇場 大ホール



蛭川幸雄氏の遺志を引き継ぎ、2代目芸術監督に就任した吉田鋼太郎を迎えた「彩の国シェイクスピア・シリーズ」が再スタートした。演出に加えて主人公のタイモン役を演じた吉田鋼太郎、つむじ曲がりの哲学者アベマントス役の藤原竜也、アテネに対して復讐の炎に燃える武将アルシバイアディーズ役の柿澤勇人、従順な執事フレヴィアス役の横田栄司……全員が魅力的に役を生き、セリフをパワフルに表現。金に群がる人間に絶望するタイモンの悲劇に喜劇と風刺を効かせ、現代に響く物語を引き出した。真摯で気迫充分の演技は、天国の蛭川氏にも届いただろう。

MUSIC

レオニダス・カヴァコス ヴァイオリン・リサイタル
11.19(日) 彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール



大家の道を歩むカヴァコスがピアノのエンリコ・パーチュと豊かな音楽世界を築いた極上のリサイタル。ヤナーチェクのソナタでは、特有の節回しがカヴァコスならではの美音と鋭さで奏でられ、息を呑む。パーチュの詩的な響きに心打たれたシューベルト《幻想曲》は、いわゆる第4楽章での舞曲のリズム感が印象的。メシアン《主題と変奏》は作品の持つ美の側面を鮮烈に聴かせ、ベートーヴェンのソナタ第10番は至福の二重奏を味わわせてくれた。アンコールは超絶技巧の《ペトルーシュカ》と繊細の極みのドホナーニ《ハンガリー牧歌》、対照的な2曲どちらも圧巻だった。

MUSIC

彩の国さいたま芸術劇場シリーズ企画
「次代へ伝えたい名曲」第12回
工藤重典 フルート・リサイタル
12.17(日) 彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール



世界的な奏者工藤重典のリサイタルは、長年拠点を置くフランスの音楽とフルートの音楽性を追求したプログラム。工藤の温かな音色で奏でるベートーヴェンのヴァイオリン・ソナタ第8番は、ヴァイオリン演奏より作品の姿がよく見えるのが面白い。続くフォーレ、ドビュッシーの歌曲、ダマーズ《ベイザージュ》第9曲では、多彩な響きが描き出す作品の世界観に浸った。フランクのソナタは長崎麻里香のピアノと工藤のフルートが溶け合う滑らかな音が絶品で、歌曲を聴くような気分。アンコールの《カタリ・カタリ》も含め、音楽の本質は“歌”であることが伝わってくる演奏会だった。

Event Calendar

イベントカレンダー 2018. 1.15 - 4.15

PLAY DANCE MUSIC CINEMA EVENT

大ホール 小ホール 音楽ホール 映像ホール 情報プラザ＝彩の国さいたま芸術劇場

お子様から楽しんでいただける公演です。
光の庭プロムナード・コンサートには年齢制限はありません。

PLAY

1. 27 (土)

彩の国さいたま寄席 四季彩亭
林家たい平とおすすめ若手落語会

小ホール 開演15:00 詳細はP.21

3. 3 (土)
-11 (日)

蜷川幸雄三回忌追悼公演
『ムサシ』

大ホール 3.3 (土) 18:00 8 (木) 13:30
4 (日) 13:00 9 (金) 13:30
5 (月) 休演 10 (土) 13:00／18:00
6 (火) 13:30 11 (日) 13:00
7 (水) 13:30／18:30 詳細はP.3-5

4. 14 (土)

彩の国さいたま寄席 四季彩亭
林家正蔵と特選落語家競演会

小ホール 開演14:00 詳細はP.21

DANCE

1. 20 (土)
21 (日)

ジェローム・ベル『Galaーガラ』

大ホール 20 (土)・21 (日)開演15:00 詳細はP.21

2. 2 (金)
-4 (日)

平山素子 (ダンス)×加藤訓子 (パーカッション)
『DOPE』

小ホール 2 (金)開演19:30、3 (土)・4 (日)開演14:00
詳細はP.21

2. 17 (土)
18 (日)

Noism1『NINAー物質化する生け贄』

大ホール 17 (土)開演17:00、18 (日)開演15:00
詳細はP.12-13

MUSIC

1. 20 (土)

光の庭プロムナード・コンサート第97回
舌よ歌え ～バロック・オーボエとオルガンの競演～

情報プラザ 開演14:00 ※入場無料

[出演]大塚直哉 (オルガン)、
尾崎温子 (バロック・オーボエ / オーボエ・ダモーレ / オーボエ・ダ・カッチャ)

[曲目] クープラン：コンセル第8番「劇場風」
ティトルーズ：舌よ歌え ほか

1. 27 (土)

ピアノ・エトワール・シリーズ Vol.33
パヴェル・コレスニコフ ピアノ・リサイタル

音楽ホール 開演15:00 詳細はP.22

3. 6 (火)

埼玉会館ランチタイム・コンサート第34回
金管五重奏団 Buzz Five

埼玉会館 大ホール 開演12:10 (終了予定13:00) 詳細はP.22

3. 17 (土)

光の庭プロムナード・コンサート第98回
和の風×洋の風

情報プラザ 開演14:00 ※入場無料

[出演] 石丸由佳 (オルガン)、田野村 聡 (尺八)
[曲目] スカルラッティ：ソナタ ヘ長調
横山勝也：魔切
J. S. バッハ：G線上のアリア
宮城道雄：春の海 ほか

3. 21 (水・祝)

マレイ・ペライア ピアノ・リサイタル

音楽ホール 開演15:00 詳細はP.14-15

EVENT

2. 24 (土)
25 (日)

〈ゴールド・アーツ・クラブ〉成果発表

大ホール 開演15:00

※一般観覧要申込 詳細はP.23

●…彩の国さいたま芸術劇場 休館日
●…埼玉会館 休館日

2018	1	2								3									
S	M	T	W	T	F	S	S	M	T	W	T	F	S						
	1	2	3	4	5	6							1	2	3				
	7	8	9	10	11	12	13	4	5	6	7	8	9	10					
	14	15	16	17	18	19	20	11	12	13	14	15	16	17					
	21	22	23	24	25	26	27	18	19	20	21	22	23	24					
	28	29	30	31				25	26	27	28								
	3	4								5									
S	M	T	W	T	F	S	S	M	T	W	T	F	S						
				1	2	3	1	2	3	4	5	6	7						
	4	5	6	7	8	9	10	8	9	10	11	12	13	14					
	11	12	13	14	15	16	17	15	16	17	18	19	20	21					
	18	19	20	21	22	23	24	22	23	24	25	26	27	28					
	25	26	27	28	29	30	31	29	30										

※ 4月休館日は変更する可能性があります。

CINEMA

彩の国シネマスタジオ

[全席自由・各回入替制・整理券制]
大人1,000円／学生500円 [入場時に学生証をご提示ください]
※料金は当日現金支払いのみ

1. 25 (木)～28 (日) 映像ホール

『光をくれた人』

(2016年／アメリカ・オーストラリア・ニュージーランド／133分)
[監督・脚本] デレク・シアンフランス
[出演] マイケル・ファスベンダー、アリシア・ヴィキャンデル、
レイチェル・ワイズ、ブライアン・ブラウン、ジャック・トンプソン ほか

25 (木)～27 (土) 10:30／14:00／18:00
28 (日) 10:30／14:00

1. 30 (火)～2. 1 (木) 埼玉会館小ホール

『山猫 修復版』

(1963年／イタリア・フランス／187分)
[監督・脚本] ルキノ・ヴィスコンティ
[出演] パート・ランカスター、アラン・ドロン
クラウド・カルディナーレ ほか

1/30 (火)～2/1 (木) 10:30／15:00

2. 8 (木)～12 (月・祝) 映像ホール

『静かなる情熱 エミリ・ディキンソン』

(2016年／イギリス・ベルギー／125分)
[監督・脚本] テレンス・デヴィス
[出演] シンシア・ニクソン、ジェニファー・イーリー ほか

8 (木)～11 (日) 10:30／14:00／18:00
12 (月・祝) 10:30／14:00

© A Quiet Passion Ltd / Hurricane Films 2016. All Rights Reserved.

3. 7 (水)～11 (日) 映像ホール

『人生タクシー』 (2015年／イラン／82分)

[監督・出演] ジャファール・パナヒ

7 (水)～10 (土) 10:30／14:00／18:00
11 (日) 10:30／14:00

© 2015 Jafar Panahi Productions

3. 21 (水・祝)～25 (日) 映像ホール

『歓びのトスカーナ』

(2016年／イタリア・フランス／116分)
[監督・共同脚本] パオロ・ヴィルズィ
[出演] ヴァレリア・ブルーニ・テデスキ、ミカエラ・ラマツツォッティ ほか

21 (水・祝)～24 (土) 10:30／14:00／18:00
25 (日) 10:30／14:00

© LOTUS 2015

Tickets

チケット

PLAY DANCE MUSIC

大ホール 小ホール 音楽ホール 映像ホール 情報プラザ＝彩の国さいたま芸術劇場

*U-25チケットは公演時、25歳以下の方が対象です。入場時に身分証明書をご提示ください。

PLAY

発売中

彩の国さいたま寄席 四季彩亭
林家たい平とおすすめ若手落語会

1. 27 (土) 15:00 小ホール

[出演] 林家たい平 (ゲスト)、柳家一琴、
春風亭昇也、三遊亭わん丈

チケット (税込) 全席指定 一般3,000円
ゆうゆう割引 (65歳以上・障がい者) 2,000円
メンバーズ 2,700円

発売中 ※残席僅少

蜷川幸雄三回忌追悼公演
『ムサシ』 詳細はP.3-5

発売日 一般 1. 27 (土) メンバーズ 1. 20 (土)

彩の国さいたま寄席 四季彩亭
林家正蔵と特選落語家競演会

4. 14 (土) 14:00 小ホール

[出演] 林家正蔵 (ゲスト)、入船亭扇好、
古今亭文菊、林家たま平

チケット (税込) 全席指定 一般3,000円
ゆうゆう割引 (65歳以上・障がい者) 2,000円
メンバーズ 2,700円

発売日 一般 2. 17 (土) メンバーズ 2. 9 (金)

さいたまゴールド・シアター番外公演
『ワレワレのモロモロ
ゴールド・シアター2018春』

詳細はP.6

発売日 一般 2. 24 (土) メンバーズ 2. 17 (土)

めにみえない みみにしたい

4歳以上 詳細はP.8-9

発売日 一般 3. 24 (土) メンバーズ 3. 17 (土)

さいたまネクスト・シアター^{ゼロ}
世界最前線の演劇1
『ジハードーDjihadー』

詳細はP.7

発売日 一般 4. 14 (土) メンバーズ 4. 7 (土)

彩の国さいたま寄席 四季彩亭
7月 (予定)
詳細は次号に掲載します。

DANCE

発売中

ジェローム・ベル『Galaーガラ』

1. 20 (土)・21 (日) 15:00 大ホール

[構想・演出] ジェローム・ベル

チケット (税込) 一般 前売S席4,000円 A席3,000円
U-25* 前売S席2,500円 A席1,500円
メンバーズ 前売S席3,600円 A席2,700円
※当日券は各席種とも+500円

発売中

平山素子 (ダンス)×加藤訓子 (パーカッション)
『DOPE』

2. 2 (金) 19:30、3 (土)・4 (日) 14:00 小ホール

[演出・振付・ダンス] 平山素子
[音楽監督・パーカッション] 加藤訓子
[音楽] スティーヴ・ライヒ：ドラミング

チケット (税込) 全席指定 一般 前売4,500円 当日5,000円
メンバーズ 前売4,200円 当日5,000円 ほか

[主催] NPO alfalfa
[共催] 公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団、
愛知県芸術劇場、kuniko kato arts project

発売中

Noism1
『NINAー物質化する生け贄』

詳細はP.12-13

発売日 一般 3. 10 (土) メンバーズ 3. 3 (土)

コンドルズ 埼玉公演2018『新作』

6. 2 (土) 14:00／19:00、3 (日) 15:00 大ホール

[構成・映像・振付] 近藤良平
[出演] コンドルズ

チケット (税込) 一般 前売S席5,000円 A席3,500円
U-25* 前売S席3,000円 A席2,000円
メンバーズ 前売S席4,500円 A席3,200円
※当日券は各席種とも+500円

発売日 一般 3. 10 (土) メンバーズ 3. 3 (土)

フィリップ・ドゥクフレ / DCA
『新作短編集 (2017)
ーNouvelles Pièces Courtesー』

6. 29 (金) 19:00、30 (土)・7. 1 (日) 15:00 大ホール

[演出・振付] フィリップ・ドゥクフレ
[出演] カンパニー DCA

チケット (税込) 一般 前売S席6,500円 A席4,000円
U-25* 前売S席3,500円 A席2,000円
メンバーズ 前売S席6,000円 A席3,600円
※当日券は各席種とも+500円

コンドルズ + フィリップ・ドゥクフレ / DCA
セット券販売予定!!
※詳細は決まり次第財団ホームページに掲載します。

次頁へ続く

MUSIC

発 売 中

ピアノ・エトワール・シリーズVol.33
パヴェル・コレスニコフ
ピアノ・リサイタル
1.27(土)15:00 音楽ホール
 [曲目] シューベルト：《12のワルツ、17のレントラーと9つのエコセーズ》D 145より
 ピアノ・ソナタイ短調 D 537
 シューマン：ヴィーンの謝肉祭の道化 作品26
 ショパン：ワルツ 変イ長調 作品69-1「告别」
 即興曲第1番 変イ長調 作品29
 ワルツ 嬰ハ短調 作品64-2
 幻想即興曲 嬰ハ短調 作品66 (遺作)
 マズルカ集 より
 幻想曲 ヘ短調 作品49
 ワルツ 変ホ長調 作品18「華麗な大円舞曲」
 チケット(税込)
 一般 正面席3,500円 バルコニー席2,500円
 U-25*(バルコニー席対象)1,000円 メンバーズ 正面席3,200円

発 売 中

埼玉会館ランチタイム・コンサート第34回
金管五重奏団 Buzz Five
3.6(火)12:10(終了予定13:00)
 埼玉会館 大ホール
 [出演]金管五重奏団 Buzz Five／バズ・ファイブ
 上田じん、松山 萌(トランペット)、友田雅美(ホルン)、
 加藤直明(トロンボーン)、石丸薫恵(チューバ)
 [曲目] 滝 廉太郎：花
 アンダーソン：トランペット吹きの休日
 チータム：《プラスメナジェリー》より ほか
 チケット(税込) 全席指定 1,000円

発 売 中

マレイ・ペライア ピアノ・リサイタル
📞 詳細はP.14-15

発 売 中

彩の国さいたま芸術劇場シリーズ企画
「次代へ伝えたい名曲」第13回
モルゴア・カルテット
5.12(土)15:00 音楽ホール
 [出演]モルゴア・カルテット
 荒井英治、戸澤哲夫(ヴァイオリン)、
 小野富士(ヴィオラ)、藤森亮一(チェロ)
 [曲目] ハイドン：弦楽四重奏曲ト長調 作品33-5「ごきげんいかが」
 ヴェムリンスキー：弦楽四重奏曲 第3番 作品19
 ショスタコーヴィチ：弦楽四重奏曲 第9番 変ホ長調 作品117
 メタリカ(編曲:荒井英治)：メタル・マスター(Master of Puppets)
 チケット(税込)
 一般 正面席4,000円 バルコニー席3,000円
 U-25*(バルコニー席対象)1,500円
 メンバーズ 正面席3,600円
※4月1日(日)関連プログラムあり(要事前申込み) 📞 詳細はP.23

【3公演セット券】発売中

【Vol.34 1回券】発売日 一般 2.3(土) メンバーズ 1.27(土)

2018年度ピアノ・エトワール・シリーズ
Vol.34 シャルル・リシャール=アムラン
Vol.35 ダニエル・シュエ
Vol.36 レミ・ジュニエ
📞 詳細はP.16-17

発売日 一般 2.25(日) メンバーズ 2.24(土)

埼玉会館ランチタイム・コンサート第35回
天羽明恵(ソプラノ)
6.29(金)12:10(終了予定13:00)
 埼玉会館 大ホール
 [出演]天羽明恵(ソプラノ)、古藤田みゆき(ピアノ)
 [曲目] モーツァルト：すみれ KV 476、クローエに KV 524
 越谷達之助：初恋
 山田耕筈：からたちの花 ほか
 チケット(税込) 全席指定 1,000円

発売日 一般 3.31(土) メンバーズ 3.24(土)

埼玉会館ファミリー・クラシック
夏休みオーケストランド! 👤 4歳以上
7.28(土)14:00(休憩有り)
 埼玉会館 大ホール
 [出演] 飯森範親(指揮)、朝岡 聡(ナビゲーター)、
 東京交響楽団(管弦楽)、ソリスト未定
 [曲目] 小室昌広：ディズニーのメロディーによる管弦楽入門
 【指揮者にチャレンジ!】ビゼー：歌劇《カルメン》前奏曲から
 ロッシーニ：歌劇《ウィリアム・テル》序曲 ほか
※みんなで歌おう＆演奏しようコーナー有り
 チケット(税込)
 一般 S席大人4,000円 子ども(4歳～中学生)2,000円
 A席大人3,500円 子ども(4歳～中学生)1,500円
 メンバーズ S席大人3,600円 A席大人3,200円

発売日 一般・メンバーズ 4.1(日)

大塚直哉レクチャー・コンサート
J. S. バッハ“平均律クラヴィーア”の魅力
ポジティブ・オルガンvsチェンバロ その1
※オルガン・レクチャー(演奏付)とのセット券あり 📞 詳細はP.23

発売日 一般 4.21(土) メンバーズ 4.14(土)

ベルリン・フィル プラス・トリオ
9.30(日)14:00 音楽ホール
詳細は次号に掲載します。

発売日 一般 4.21(土) メンバーズ 4.14(土)

NHK交響楽団
井上道義(指揮) 辻 彩奈(ヴァイオリン)
10.6(土)16:00
 埼玉会館 大ホール
 [曲目] モーツァルト：ヴァイオリン協奏曲第5番 イ長調 KV 219
 「トルコ風」
 プラームス：交響曲第4番 ホ短調 作品98 ほか
詳細は次号に掲載します。

発売日 一般 4.21(土) メンバーズ 4.14(土)

ヴァレリー・アフアナシエフ
ピアノ・リサイタル
10.13(土)15:00 音楽ホール
詳細は次号に掲載します。

TICKET

インターネット

SAF アルファ **SAFオンラインチケット**
 で、発売初日10:00から
 公演前日23:59まで
オンラインチケット 受付いたします。

 **【PC・携帯共通】**
<http://www.ticket.ne.jp/saf/>

メンバーズ ➡ **登録のご住所へ無料配送**
一 般 ➡ **【クレジットカード決済】** ▶ **コンビニ発券**
または【コンビニ支払い】
※チケット代の他に、店頭発券手数料(チケット1枚につき120円)が必要です。

電話予約

チケットセンター 0570-064-939
 10:00～19:00 (彩の国さいたま芸術劇場休館日を除く)
※一部の携帯電話、PHS、IP 電話からは受付できません。

メンバーズ ➡ **登録のご住所へ無料配送**
一 般 ➡ **【クレジットカード決済】** ▶ **コンビニ発券**
または【コンビニ支払い】

※チケット代の他に、店頭発券手数料(チケット1枚につき120円)が必要です。
 ※コンビニ支払い後のチケット配送も承りますが、チケット代のほかに配送料(配送1件につき400円)が必要です。

窓口販売

彩の国さいたま芸術劇場・埼玉会館窓口(10:00～19:00)
 で直接購入いただけます。電話予約したチケットの引取
 もできます(メンバーズは登録のご住所への配送となります)。
※休館日をお確かめの上、ご来場ください。

メンバーズ ➡ **【口座引落】** **その場で**
一 般 ➡ **【現金】または** **チケットを**
【クレジットカード決済】 **お渡しします。**
※手数料はかかりません。

2018年度
大塚直哉レクチャー・コンサート&
オルガン・レクチャー(演奏付)
セット券販売します!

オルガンやチェンバロのソリスト・
 通奏低音奏者として第一線で活躍
 する大塚直哉氏によるレクチャー
 企画を2018年度も開催します。
期間限定セット券販売
1.20(土)～3.31(土)
チケット(税込) 全席自由 2,700円



Photo◎加藤英弘

チケット発売日 4.1(日)

大塚直哉レクチャー・コンサート
J. S. バッハ“平均律クラヴィーア”の魅力
ポジティブ・オルガンvsチェンバロ その1

《平均律クラヴィーア曲集第1巻》にスポットを当て、オルガ
 ンとチェンバロを聴き比べます。
 [日時] 9月2日(日) 14:00
 [会場] 彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
 [出演] 大塚直哉(オルガン、チェンバロ、お話)
 [曲目] J. S. バッハ「平均律クラヴィーア曲集第1巻」より 第
 1番から第12番
 チケット(税込) 全席自由 2,000円

チケット発売日 9月(予定)

オルガン・レクチャー(演奏付)
ポジティブ・オルガン + ^{アルファ}α アンサンブルの楽しみ
ヴァイオリンと奏するロマンティックなバロック!?

モダン・ヴァイオリンとオルガンのアンサンブルで、オルガンの
 ロマンティックな響きの世界をご案内します。
 [日時] 2019年1月20日(日) 14:00
 [会場] 彩の国さいたま芸術劇場 大練習室
 [出演] 大塚直哉(オルガン・講師) ほか
 [曲目(予定)] アルビノーニ：アダージョ
 ヴィタリ：シャコンヌ ほか
 チケット(税込) 全席自由 1,000円

INFORMATION

〈ゴールド・アーツ・クラブ〉成果発表
一般観覧募集!

60歳以上のシニア世代に、演劇
 をはじめさまざまな舞台芸術のプ
 ログラムで表現活動に親しんでい
 ただく芸術クラブ活動「ゴールド・
 アーツ・クラブ」が、彩の国さいた
 ま芸術劇場で始動しました。今
 年のメインプログラムは、「1万人のゴールド・シアター2016」
 を率いた演出家・ノゾエ征剛氏による演劇ワークショップで
 す。このワークショップの成果発表に、計100名(各日50名)
 をご招待いたします。舞台で輝くシニアの皆様の活躍をぜひ
 ご覧ください。



Photo◎宮川舞子

[日時] 2月24日(土)・25日(日) 15:00
 [会場] 彩の国さいたま芸術劇場 大ホール(入場無料／自由席)
 [定員] 各日50名(計100名)

【申込方法】
 はがきに ①郵便番号・住所 ②氏名 ③年齢 ④希望日・希
 望人数(1枚のはがきでいずれか1日2名様まで)をご記入
 の上、ご応募ください。
 【応募締切】2月10日(土) 必着
 ※応募者多数の場合は抽選。当選者の発表は入場券の発
 送をもって代えさせていただきます。
 【応募先】〒338-8506 さいたま市中央区上峰3-15-1
 (公財) 埼玉県芸術文化振興財団
 「ゴールド・アーツ・クラブ観覧募集」係
 【お問合わせ】彩の国さいたま芸術劇場
 0570-064-939 ※休館日を除く10:00～19:00

「埼玉アーツシアター通信」の発行月日が変わります!

本誌「埼玉アーツシアター通信」は公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団の情報誌として、
 財団主催公演の情報を出演者インタビューや寄稿記事、豊富なビジュアルでお届けしておりま
 す。これまでは年6回、毎月奇数月15日に発行していましたが、次号の4月1日発行号より
 偶数月1日に変更いたします。メンバーズ会員の皆様へも同様に、毎月発行後1週間前後で
 のお届けとなります。今後ともよろしく願いいたします。

サポーター会員

(公財) 埼玉県芸術文化振興財団は、演劇、ダンス、音楽を中心に、この劇場でしか見られない最高の作品を提供できるよう、作品づくりに努めています。
 こうした財団の活動にご理解、ご支援をいただいているのがサポーター会員の皆様方です。(2017.12.25現在／一部未掲載)

(株)与野フードセンター／(株)亀屋／(株)松本商会／(有)香山壽夫建築研究所／埼玉新聞社／埼玉りそな銀行／(株)パシフィックアートセンター
 (株)アサヒコミュニケーションズ／FM NACK5／カヤバ システム マシナリー(株)／(株)タムロン／(株)十万石ふくさや／森平舞台機構(株)
 東芝エルティアーエンジニアリング(株)／埼玉トヨタ自動車(株)／(有)齋賀設計工務／武蔵野銀行／浦和ロイヤルパインズホテル／アルピーノ村／国際照明(株)
 埼玉スバル／(株)佐伯紙工所／(株)太陽商工／(株)しまむら／不動産開発(株)／ビストロ やま／埼玉縣信用金庫／(株)栗原運輸／彩の国 S P グループ
 (有)ブラネッツ／(株)デサン／セントラル自動車技研(株)／丸美屋食品工業(株)／ボラスグループ／ひがし歯科／埼玉トヨペット(株)／公認会計士 宮原敏夫事務所
 (株)埼玉交通／サイデン化学(株)／アイル・コーポレーション(株)／五光印刷(株)／旭ビル管理(株)／ヤマハサウンドシステム(株)／(株)エヌテックサービス
 (株)クリーン工房／(株)つばめタクシー／(株)サンワックス／(株)綜合舞台／(一財)さいたまま住宅検査センター／(株)国大グループホールディングス
 (株)NEWSエンターテインメント／オーガスアリーナ(株)／イープラス／六三四堂印刷(株)／(医)榎会 林整形外科／埼玉県整形外科医会／(医)山幹会 山崎整形外科
 サンケイリビング新聞社／(株)三和広告社／(株)セノン／ショッパー／(株)松尾楽器商会／JA 埼玉県中央会／日本大学芸術学部／(株)川口自動車交通
 (株)ホンダカーズ埼玉／ファミリーマートあすまや／(有)杉田電機／丸茂電機(株)／太平ビルサービス(株)さいたま支店／(株)片岡食品／(株)協栄(株)ヨコハマタイヤジャパン
 NTT東日本 埼玉事業部／チャコット(株)／(株)平和自動車／光陽オリエントジャパン(株)／さくら Music Office／クワバラ・パンぶキン／駒橋内科医院
 東和アークス(株)／テレビ埼玉／日本ビストンリング(株)／金井大道具(株)／国立大学法人 埼玉大学／(株)七越製菓／ビーンズ与野本町／(一社) 埼玉県経営者協会
 (株)コマーム／(株)原一探偵事務所／飯能信用金庫／川口信用金庫／青木信用金庫／(株)和幸楽器／新日本ハウス(株)／大栄不動産(株)／相川宗一／(株)ハイデイ日高
 浦和実業学園中学・高等学校／三井隆司／大和証券(株)／AGS(株)／(株)ジャスト／(株)ワイイーシーソリューションズ／白神久吉／医療法人青木会

どっちつかずの天使

最終回



画●磯良一

入れてよ

文●岩松 了

最終回ということなのでそれにふさわしい題材はないかと思って記憶をたどったが、そんなものあるわけもなく、いつものように人の口からふと漏れた言葉を手がかりに――。

身のまわりには役者と呼ばれる職業の者が多い。もうこの歳になれば（とりあえず20年30年40年と続けてしまっているから）職業と言わざるをえないのだが、若い頃は、役者としてお金を稼いだりしてないことが多いから、職業とも言い難かったりする。しかも虚業と言うべきか、具体的には何も生み出してはいない。釈然としないのは、陽も高いころブラブラしていると「お休みですか、今日は？」と近所の人に声をかけられることだろう。笑顔でハアなどと言葉を返しているが心の内では「休みじゃない、仕事がないだけだ」と言っている。結婚でもしてた日にゃ、近所の人にかわって女房が「お休みですか、今日は？」と口には出さねど聞いてくる。こちらの心の声がかかってるから口には出さないわけだ。その水面下に隠れてしまった夫婦間の会話は思わぬところで、別の形となって表れる。

俳優Mさんは、今は50代半ばでずいぶん忙しい毎日を送っている。仕事が絶えないどころか、いつも三つ四つの台本を持って、あっちの現場こっちの現場と駆け回っている。そのMさん、結婚して長い子どもはいない。奥さんは穏やかな顔立ちの専業主婦というところで、よく連れだって旅行だ食事だと出かけている。夫婦仲いいね、などと私は冷やかしたりするのだが、先日、「奥さんに言われて最高にショックだった一言って何かある？」とインタビューもどきの質問をした。Mさんは、身を乗り出して話してくれた。

若い頃、ご多分に漏れず、仕事もなく家にいることが多かったそうで「一緒にスーパーに買い物に行ったんですよ。で、あれ買いこれ買いで、レジくるじゃないですか。レジからちょっと離れたところでオレ待ってたんですよ。女房は買ったものをカゴからビニール袋に移してるわけですよ。そういうシステムだったから、そのスーパー。買った人が自分でカゴからビニール袋に移すっていう。だから女房はそれやって、オレは離れたところでそれを見ていた。そしたら！女房がふと手を休め、オレを見て、言ったんですよ」

「何て？」

Mさんは、ここ大事とばかりに奥さんになりきって、仮想自分に向かって、蔑むように言ってみせた。

「入れてよ、って」

私は、しばしの沈黙ののち「それ、キツイね」と言うしかなかった。

いわまつ・りょう

劇作家、演出家、俳優、映画監督と幅広く活躍。さいたまゴールド・シアター『船上のピクニック』『ルート99』『薄い桃色のかたまり』の劇作を手掛けた。1月、作・演出を手掛ける『三人姉妹はホントにモスクワに行きたがっているのか?』上演予定。